

清水育英会×中央共同募金会「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に応援する助成」助成決定にあたって

(赤い羽根福祉基金プログラム)

2022年9月28日

1.応募状況の概要

- 清水育英会×中央共同募金会「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に応援する助成への応募状況は、76件(1億633万円)でした。
- 応募した団体の所在地は、神奈川県が12件、愛知県が6件、福島県・埼玉県・長野県・兵庫県が4件、東京都・山口県・福岡県が3件、北海道・宮城県・栃木県・群馬県・新潟県・静岡県・三重県・京都府・大阪府・広島県・鹿児島県が2件、岩手県・秋田県・千葉県・富山県・石川県・福井県・奈良県・香川県・愛媛県・佐賀県・沖縄県が1件でした。
- 応募した団体の法人種別は、NPO法人が35、任意団体が27、一般社団法人が9、公益社団法人が2、一般財団法人が2、社会福祉法人が1でした。

2.助成決定の概要

- 応募いただいた団体の審査を行った結果、21団体、総額2,512万円の助成を決定しました。
総額のうち、助成プログラム①「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に支援する活動」は15団体・1,193万円、助成プログラム②「地域や多機関連携による重層的な子どもの学習・生活支援体制づくりなど、社会に新たな価値を創造する活動」は6団体・1,319万円の決定となります。
- 財源が限られていることから、応募要項に照らし合わせて審査を行い、必要性や緊急性が高い活動、また確実に効果的な支援につながる活動であると応募書から判断されるものを決定いたしました。

3.助成決定にあたって (審査委員長コメント)

本助成は、一般財団法人清水育英会からの資金を原資に、清水育英会と中央共同募金会の共同助成として、長期化する新型コロナウイルスの影響下において、経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもたちの学習と生活を一体的に応援することを目的として実施いたしました。

今回は76件の応募のうち、21団体が助成採択となり、2,512万円の助成が決定いたしました。

助成プログラム①「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に支援する活動」では、困窮家庭にある子どもや生きづらさを抱える子どものための学習支援に加えて子ども同士のつながりや安心して過ごすことができる居場所の提供や食支援活動、親子食堂と学習支援を一体化させ子どもの様子を知り、あわせて親との関わりの中かで必要に応じた生活支援を展開する活動、経済的困窮などの不安を抱える生徒のための定時制・通信制の高校での食事提供や校内カフェを通じた居場所や相談支援、外国にルーツがある子どもへの日本語学習支援や生活・食支援活動、不登校や引きこもりがちな子どもなどへの居場所や学習支援活動など、多彩な活動がみられました。

また助成プログラム②「地域や多機関連携による重層的な子どもの学習・生活支援体制づくりなど、社会に新たな価値を創造する活動」では、外国にルーツがある子どもや生活に困窮している家庭の子どもを地域の日本語学校や若者支援団体や相談機関と連携して見守り、学習支援や就労支援などを行うネットワークづくり、困難な状況にある子どもや若者とその家族を地域の学校や支援機関と連携し学習支援や居場所支援等を通じて一体的に支える活動などが採択となりました。

応募書から、困窮し孤立する子どもや親たちへの支援の必要性がますます高まっていることを実感いたしました。また子ども達のより良い未来のために、自己肯定感を育み自立を応援しようと志を持って活動されている方たちがこんなにも多くいることに大変喜ばしく思います。

一方で団体が把握している支援ニーズや課題に対し、具体的にどのように対応し解決していくのか、詳細な活動内容や助成金の使いみちの説明が不足していると思われる応募書が見受けられました。目の前の人を支える活動が多忙を極めることは十分理解いたしますが、その活動の意義や効果を伝えるためにしっかりと言語化されることを望みます。

困窮し孤立する子どもや親の困りごととその背景は多様化しています。地域の多様な支援組織と連携しつながりを増やすことで、多くの子ども達に手を差し伸べる活動が広がり、子ども達一人ひとりの未来が輝かしいものになることを願っております。

清水育英会×中央共同募金会「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に応援する助成」審査委員会
委員長 松原康雄